

安全データシート

1/6

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: ソフライト 除菌
SDS 整理番号	: SPS-ADCL-5355
供給者の会社名称	: 旭化成アドバンス株式会社
住所	: 〒105-0004 東京都港区新橋 6-17-21 住友不動産御成門駅前ビル
担当部門	: 樹脂化学品本部 ウェルビーイング事業グループ
電話番号	: 03-5404-5045
FAX 番号	: 03-5404-5059
緊急連絡先	: 樹脂化学品本部 化学品事業部 クリーナー生産管理・技術開発部
電話番号 (平日・昼間)	: 044-271-2639
電話番号 (休日・夜間)	: ① 070-2488-8586 ② 090-7091-1568 ③ 080-9097-8792
推奨用途及び使用上の制限	: (推奨用途) 医療施設の器具、器材（ドアノブ、ベッドの パイプ、手すり等）の清拭・除菌 (使用上の制限) 16 項に記載

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 : なし

全ての項目が、分類できないまたは区分に該当しない

健康有害性 : なし

全ての項目が、分類できないまたは区分に該当しない

環境有害性 水生環境有害性 短期（急性） : 区分 2

上記以外の項目は、分類できないまたは区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル : なし

注意喚起語 : なし

危険有害性情報 : H401 水生生物に毒性

注意書き

安全対策 : P273 必要な時以外は環境への放出を避けること。

応急措置 : なし

保管 : なし

廃棄 : P501 多量の場合は、内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

安全データシート

2/6

化学名又は一般名	： クリーニングウェス			
化学名	化学式	CAS No.	含有量(wt%)	管報公示整理番号
塩化ラリル [®] メル ベンジルアンモニウム	[R(CH ₃) ₂ NCH ₂ C ₆ H ₅]Cl * R はラリル基を示す	139-07-1	0.1~10	(3)-2694
水	H ₂ O	7732-18-5	70~80	備考参照
不織布	非公開	非公開	20~30	非公開
備考	： 日本薬局方第 18 改正収載物質			

4. 応急措置

吸入した場合	： 含浸液を吸入した場合は、直ちに被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い場合は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	： 使用中に赤み、はれ、かゆみ、刺激などの異常が現れたときは、使用を中止し、必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	： 含浸液が目に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続け、さらに目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	： 含浸液を飲み込んだ場合は水でよく口の中を洗浄すること。直ちに医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤	： 初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
使ってはならない消火剤	： 特になし
特有の危険有害性	： 情報なし
特有の消火方法	： 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火を行う者の保護	： 消火作業の際は、必要に応じて適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	： 密閉された屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 ガスが発生した場合や多量に飛散した場合、人を安全に退避させる。 漏出時の処理を行う際には、必要に応じて適切な保護具（ゴム手袋、保護眼鏡（ゴーグル型等）、マスク等）を着用する。
-----------------------	--

安全データシート

3/6

- 環境に対する注意事項 : 散乱した大量の製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、散乱した製品を掃き集め、密封できる空容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 取り扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設けることが好ましい。取扱いは換気の良い場所で行う。
- 安全取扱注意事項 : 手荒れ防止のため、ゴム手袋等を着用して使用する。手や顔などの人体に使用しない。傷、はれもの、湿疹等、異常のあるときは使用しない。
- 接触回避 : 情報なし
- 衛生対策 : 取扱い後は手をよく洗う。

保管

- 安全な保管条件 : 幼児の手の届かない場所に保管する。
温度の高い場所や直射日光の当たる所に長期間放置しない。
- 安全な容器包装材料 : 記載すべき情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : (製品データ) 設定されていない
- 許容濃度
日本産業衛生学会 (2015 年版)
ACGIH (2015 年版) : (製品データ) 設定されていない
- 設備対策 : 取り扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設けることが好ましい。
- 保護具
- 呼吸用保護具 : 通常の手扱いは必要なし。
- 手の保護具 : 手荒れ防止のため、ゴム手袋等を着用して使用する。
- 眼の保護具 : 通常の手扱いは必要なし。必要に応じて保護眼鏡 (ゴーグル型等) を使用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 通常の手扱いは必要なし。荒れ性の人や長時間使用の場合は、保護服等を着用する。

安全データシート

4/6

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态	: 固体
形状	: 透明液体含浸不織布
色	: 白色
臭い	: なし
pH	: 情報なし (含浸液 約 6~8)
沸点	: 情報なし (水 100°C)
引火点	: なし
爆発範囲	
下限	: なし
上限	: なし
蒸気圧	: 情報なし (水 17.5mmHg (20°C))
比重 (相対密度)	: 情報なし (含浸液 1.00 (20°C))
溶解度	
水	: 情報なし (含浸液 可溶)
その他の溶媒	: 含浸液はエチルアルコール、アセトンに可溶

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱い条件においては安定で危険性はない。
危険有害反応可能性	: 特になし
避けるべき条件	: 直射日光、高温多湿条件下放置
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 特になし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: (製品データ) 製品としては区分に該当しない
(経皮)	: (製品データ) 製品としては区分に該当しない
(吸入)	: (製品データ) 製品としては分類できない

安全データシート

5/6

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : (製品データ) 製品としては区分に該当しない

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

: (製品データ) 製品としては区分に該当しない

呼吸器感作性

: (製品データ) 製品としては分類できない

皮膚感作性

: (製品データ) 製品としては区分に該当しない

生殖細胞変異原性

: (製品データ) 製品としては区分に該当しない

発がん性

: (製品データ) 製品としては分類できない

生殖毒性

: (製品データ) 製品としては分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露): (製品データ)

製品としては区分に該当しない

特定標的臓器毒性(反復ばく露): (製品データ)

製品としては区分に該当しない

誤えん有害性

: (製品データ) 製品としては分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : (製品データ) 区分 2

(毒性乗率×10×区分 1)+区分 2 が 75.00%であり、
濃度限界(25%)以上のため

(毒性乗率×10×区分 1)+区分 2 が 75.00%であり、
濃度限界(25%)以上のため

(成分データ) 区分 1

塩化ベンザルコニウムとして含有

ミジンコ 48h EC₅₀ = 0.018mg/L

水生環境有害性 長期(慢性) : (製品データ) 製品として区分に該当しない

残留性・分解性

: (製品データ) 情報なし

生体蓄積性

: (製品データ) 情報なし

土壌中の移動性

: (製品データ) 情報なし

安全データシート

6/6

オゾン層への有害性 : (製品データ) 分類できない
モントリオール議定書の付属書にあげられる物質
は含まない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 焼却炉で少量ずつ焼却処理する。多量の場合には、内容物／容器を
国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。
汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄するときは、内容物を完全に処理した後処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制
国連番号 : 非該当
国内規制
海上規制情報 : 海洋汚染法、船舶安全法（危規則）に従う
航空規制情報 : 航空法の規定に従う
陸上規制情報 : 消防法の規定に従う
輸送の特定の安全対策及び条件 : 直射日光を避ける
緊急時応急措置指針番号 : 非該当

15. 適用法令

特になし

16. その他の情報

本製品安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常の手続きを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。

本製品を推奨用途以外に使用したい場合は、仕様が用途に合致しない場合もありますので事前に弊社に相談してください。

また、弊社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。

参考文献

GHS 分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghs_index.html